

平成21年度

# 箱根町教育概要

箱根町教育委員会

## 目 次

1	平成21年度 箱根町教育方針	1	～	8
2	箱根教育の概要（学校教育における一貫教育）	9	～	10
3	地域教育必須指導事項一覧	11		
4	地域教育に係る必須指導事項（展開案）	12	～	32
5	箱根ミニマム	33		
6	箱根町で実施する調査	34		
7	授業評価の視点	35		
8	学習への姿勢 ミニマム	36		
9	研修等事業計画	37	～	39
10	箱根の就学前・小・中学校プラン	40		
11	箱根教育（学校教育・生涯学習）体系図	41		

# 平成21年度 箱根町教育方針

## I 教育の基本方針

### 1) 「豊かな心を育む」箱根人の育成を目指しての目標

「人・心・自然、やさしさとの出会いを創造する町一箱根」の実現を目指した箱根町第5次総合計画において、教育は「次代の育成と豊かな心を育む」こと及び「自然環境の保全」「地域文化の振興」という重大な使命を託されています。

教育委員会では、使命達成のため「箱根の豊かな自然・歴史・伝統文化など、箱根の風土を大切にしたい人間教育」を基幹に置き、「地域を愛し、幅広い国際性と社会性を身につけた人間性豊かな心、温かい箱根人」の育成を目標としています。

そこで、学校教育では、

- ① 箱根を知り、箱根を語れる子
- ② 確かな学力を身につけた子
- ③ 社会のルール、規範が守れる子
- ④ 心身ともに健康で意欲的に物事に挑戦できる子
- ⑤ 友だちを大切にする子

また、生涯学習では、

- ① 箱根の歴史・自然・文化などに根ざす箱根人
- ② 健康で明るく元気な生活に根ざす箱根人

を町が目指すべき具体的な町民像とし、総合計画に掲げた町の将来像の実現を目指します。

「豊かな心を育む」箱根人の育成の具体的方策として『箱根教育』を基盤にした教育・学習の実践を図っています。

### 2) 教育目標と第5次総合計画及び箱根教育等との体系化

《学校教育》

#### ①箱根を知り、箱根を語れる子

- ⇒ (総・学) (1) 生きる力を育む教育の推進
- (2) 教育内容・方法の充実
- (箱) 小・中学校一貫の地域学習の実施

#### ② 確かな学力を身につけた子

- ⇒ (総・学) (1) 生きる力を育む教育の推進
- (2) 教育内容・方法の充実
- (箱) 箱根ミニマムの定着
  - ・漢字、数学検定補助事業
  - ・年3回のミニマム定着度調査

- ・読書活動の推進（子ども図書銀行）
- （箱）小・中学校一貫の情報教育の実施
  - ・小学校6年生での新聞展
- （箱）国際理解教育の実施
  - ・小・中学校へALT派遣
  - ・「ようこそ箱根に」の実施
- ③ 社会のルール・規範が守れる子
  - ⇒（総・学）（4）心の教育の推進
    - （箱）幼・小・中学校での「もてなしの心」の実践
      - ・集団生活のルールや規律の遵守
- ④ 心身ともに健康で意欲的に物事に挑戦できる子
  - （箱）地域学習の実施
    - ・新聞コンクール・子どもアート展・地域行事、ボランティア等への積極的参加
- ⑤ 友達を大切にする子
  - （箱）幼・小・中学校の連携
    - ・小学校へ1日体験
    - ・中学校へ1日体験
    - ・部活動の活性化

#### 《生涯学習》

- ① 箱根の自然・歴史・文化などに根ざす箱根人
  - ⇒（総・生）I-3-3 青少年健全育成
    - (2) 地域交流の推進
      - ・チャレンジクラブ、ざっこの会、大文字クラブ等の実施
    - I-3-4 生涯学習の推進
      - (1) 生涯学習企画の充実
        - （箱）・「*HAKONE*大学」の実施
          - ・郷土資料館・社会教育センター・アリーナでの学習の機会の実施
          - ・小・中学校との連携
          - ・文化財探訪会など、町内の指定文化財を活かした学習活動の実施
      - (2) 生涯学習活動の支援
        - ・HP等を活用した町内文化財情報の発信
        - ・(仮称)箱根探訪ハンドブックの作成・活用
      - (4) 図書サービスの向上
        - （箱）箱根ミニマム（読書・音読）
          - ・子ども図書銀行への支援
          - ・幼・小・中学校への図書配本

## Ⅱ－１－１ 自然環境の保全

### (1) 自然環境の保全

- ・町内天然記念物の現況を把握すると共に、維持管理計画の策定及び実施

### (6) 自然にしたしみ、自然の中で学べる環境づくり

- ・町内天然記念物保護活動へのボランティア参加促進
- ・箱根時森林浴ウォークの実施

## Ⅱ－１－３ 地域文化の振興

### (1・2) 文化遺産の保存と活用

- ・郷土資料館・関所資料館・学校跡地利用における郷土資料室開設に向けた資料保存・展示環境の整備
- ・町内の文化遺産に対する調査の実施
- ・町内に残る貴重な文化遺産に対する指定や登録の推進
- ・指定文化財の維持管理計画の策定及び実施
- ・町内の指定文化財などを活かした学習活動の実施
- ・町内の指定文化財情報の発信

### (3) 人材の確保

- ・ボランティアの参加促進

### (4) 歴史と文化のまちづくり

- ・歴史・文化的な街なみ整備とあわせ、文化遺産を生かすルートの整備

### (5・6) 地域に根ざす文化活動の支援及び、鑑賞機会の充実

→ (箱) 「町の知的財産」の積極的活用

## ② 健康で明るく元気な生活に根ざす箱根人

⇒ (総・生) I－3－4 生涯学習の推進

### (3) 生涯学習施設の機能充実

- ・(箱) サークル活動の活性化

## I－3－5 スポーツ・レクリエーションの振興

## II 箱根町の教育を取り巻く現状と課題

### 1) 新学習指導要領と箱根町の教育

平成23年から小学校、平成24年度から中学校で新学習指導要領の本格実施が始まる。授業時間数の増加や小学校高学年における外国語活動の実施あるいは、中学校体育での武道の必須化など新たな教育活動が入ってくる。そのため当町としての対応策を検討していくことが求められている。

授業時間数の課題については、本年度は検討研究課題とし、本年度末までには結論を導き出す。

小学校における国際理解教育については、現状での小中学校へのALT派遣事業は継続するとともに、本年度は本格実施を見通してのカリキュラムを策定することが求められている。新指導要領では、理科・数学の充実も指摘されており、授業の充実はもちろんのこと、実験器具等についても整備をしていく必要がある。なお、中学校の武道については、原則、柔道を行うこととし、本年度は柔道・格技場棟の整備を行う。

### 2) 平成22年までの教育委員会達成目標の進捗状況

平成18年10月に、今後4年間の教育委員会における達成目標を行動目標5項目に置き換え、設定した。本年度はその半期にあたり、5項目についての現状や課題について検証する。

行動目標では、

- ① 「平成20年度4月の学校統合に向けて」については、昨年度4月に円滑な学校統合を行うことができた。フォローアップのために、統合のための組織を一部残し、備品・通学関係の検証について、フォローアップを行った。その結果としては統合を行って「良かった」との評価である。1学級の人数も増え、多様な授業形態をくむことができるようになった。

統合後の各学校間の交流については、以前より行っていた学校間交流をベースにして統合後も実施している。

- ② 「平成21年4月までに箱根教育の実施に向けて」については、19年度より地域学習は、小学校で試行するとともに「*HAKONE*大学」を開講した。20年度からは、小学校・中学校及び生涯学習で『箱根教育』の体系を整え、本格実施を行った。

21年度は、『箱根教育』が定着をするよう実践を深めていく必要がある。地域教育の教師用の指導書については、授業実践を中心にした指導書を20年度末に作成をした。今後はこの指導書を元に、積み重ねを含め適時修正を図っていく必要がある。

- ③ 「学力の向上に向けて」については、18年度後半より「箱根ミニマム」を実践してきた。町においては、その定着度を測るために年3回の定着度調査を実施している

が、その定着については、芳しい結果が出ていない現状がある。学力の向上については、大きな課題の一つである。

- ④ 「生涯学習の充実に向けて」については、生涯学習施設を学習及び観光を兼ねた施設としての位置づけながら、生涯学習体系を作成しつつある。その中で、積極的な広報活動を行ったり、学習機会を増やすなどの創意工夫が見られるようになり、活発な生涯学習活動への繋がりが出始めてきた。特に「*HAKONE* 大学」を開講したことにより、町民の学習意欲に刺激を与えることができた。

また、社会教育センターで活動している自主活動グループと連携して誰もが気軽に参加することのできる複数のプチ講座（陶芸・篆刻・藍染など）を展開するという新たな取り組みができた。

さらに、20年度は、森林浴ウォークに中学3年生がボランティア活動で参加したほか、箱根旧街道杉並木や元箱根石仏石塔群などの指定文化財の保護活動に地区ボランティアが参加するなど、ボランティア活動についても活性化してきている。

- ⑤ 「育英奨学金制度の積極的な活用に向けて」については、返還金滞納額の削減に努めてきた。22年度までの目標を、滞納者の半減及び通常返還者の滞納「0」として、督促状送付の他、夜間の電話催告、戸別訪問等を実施して徴収強化を図ると共に、奨学金制度は貴重な寄付金と返還金で運営され、次代の後輩達に貸し付ける原資であることから遅滞なく返還するように説明を行なってきた。

その結果、20年度においては、18年度末までに全く納付をしなかった者の三割以上に納付を開始させることができ、完済した者もいる。今後も、地道な努力によって滞納者の減少に努めると共に、徴収が不可能と思われる滞納者の整理を行っていく必要があると考える。

### 3) 箱根町の教育課題

#### 【「箱根教育」の課題】

##### ① 箱根ミニマムについて

漢字の読み書き・計算については、朝の時間等で取り出し指導をしているが、なかなか定着していない現状がある。指導法の課題や普段の授業での指導の工夫など現状の指導を見直すことが求められている。また、年間読書量が非常に少ない児童生徒がかなりおり、その対策も急がれている。

調査では、家庭学習時間が極端に少ない児童生徒もいることから、学校・教育委員会が連携して家庭学習への対策についても検討し、着実な成果得られるような対策を検討・実施していくことが急務である。

## ② 「もてなしの心」について

「ようこそ」「どうぞ」「どういたしまして」「お手伝いします」「ありがとう」の言葉は、友人関係を円滑にする潤滑油の役目をするものである。幼・小・中学校「心の教育」の一貫教育としての位置づけをし、19年度より実施し、2年間を経過している。児童・生徒の実態としては、「おはよう」「こんにちは」「さようなら」等の言葉かけは良くなってきているが、感謝の言葉かけや来校者に対する言葉かけや行動ができていない面が多分に見える。

言葉の持つ意味や具体例などを通し指導していくことが求められている。

また、統合後の児童・生徒の様子であるが、当初と比べて落ち着いた行動をするようになってきているが、廊下を走る等の行動がまだ見受けられる。学校生活のルールを守ることと併せ、落ち着いた行動ができる子の指導徹底を図っていくことが必要と考えている。

## ③ 郷土資料館・関所・アリーナ・社会教育センター・文化財について

「*HAKONE*大学」では、町民の潜在化していたニーズに応えたテーマで講座を開設することができたが、とりあげるテーマや具体的な学習計画など今後の「*HAKONE*大学」のあり方・運営方法と併せて検討し、本年度半期にはその計画をまとめ広報活動を行っていく。また、心身の健康に対する関心が高いことから、それらのニーズに対応するための講座の開設が急がれる。アリーナや社会教育センターとの連携を考えての計画が必要となってくる。

郷土資料館保管の資料の公開や関所の町民への公開講座あるいは町文化財の町民への広報に関して、「町の知的財産」をどのように町民に知らせていくのか大きな課題となっている。

文化財については、指定や登録を推進すると共に、指定文化財についても将来に向けて保護していくために、現状の把握と、それらを踏まえた保護計画の策定と実施が求められている。また、文化財の保護にあたり、ボランティアなどの参加を促すことで、行政だけでなく、住民がより積極的に関わられるような体制作りもまた大きな課題となっている。

### 【課題解決に向けて】

上記の課題解決に向けて、学校教育においては、21年度の重点目標の設定に当たって、教育委員会が行うこと、学校教育が行うことを明らかにし、さらに、幼児教育とあわせて教育委員会と学校が密に連携を図るための推進組織を立ち上げる。

また、生涯学習においては、各学習施設の特徴を生かした学習内容を検討するとともに、連携についても協議し本年度半期にはその計画立案ができるようにしていくことが求められている。生涯学習においては、創意工夫した町民への広報活動を積極的に行うことが重要と考える。



### Ⅲ 21年度 重点目標

#### 1 幼・小・中学校の連携強化を図る。

- ① 年度末に中学校への1日体験入学を実施する。
  - ⇒ (教) 体験入学が円滑に実施されるよう校長会を通じ計画する。
  - ⇒ (学) 目的に合うプログラムを作成する。
- ② 小・中学校の入学に際して、支援シートの活用を図り、指導に役立てる(幼稚園等から小学校に入学する場合の活用も含む)。
  - ⇒ (教) 校長会の研究テーマとして支援シートの活用について検討を依頼する。
  - ⇒ (学) 作成した様式に従い、活用を図る。
- ③ 幼稚園等の幹部研修の強化を図る。

#### 2 心の教育の充実を図る。

- ① 「もてなし心」の実践化を図る。
  - ⇒ (教) 学校生活等での具体例を挙げた参考資料を作成する。
  - ⇒ (学) 具体例を通し、行動に表出するような指導を行う。
- ② いじめ「0」を目指す。
  - ⇒ (教) スクールカウンセラー等の巡回相談を実施する。
  - ⇒ (学) いじめを許さない指導及び発生したときの加害・被害者・保護者・職員への迅速かつ適切な指導を実施する。
- ③ 落ち着いた学校生活をする姿勢を育成をする。
  - ⇒ (教) 町の目標を設定する。  
人の話は静かに聴く。廊下は走らない。清掃時は無駄口をして活動はしない。
  - ⇒ (学) 目標に対し具体的に行動できる

#### 3 箱根教育

- ① 地域教育
  - ⇒ (教) 教師用指導書の配布
  - ⇒ (学) 教師用指導書の加除・修正を行う。
- ② 箱根ミニマム
  - ⇒ (教) ・年3回の定着調査を継続する  
・箱根子ども図書銀行の運営支援をする。
  - ⇒ (学) ・通常授業での取り組み強化をする。

- ・学力に関する調査やテスト活用の工夫をする。
- ・家庭学習の取り組み工夫を行う。

#### 4 新学習指導要領

- ⇒ (教)・小学校4・5・6年の国際理解教育(外国語活動)の教育課程の編成方法
  - ・中学校における授業時数の弾力的移行
- ⇒ (学)・小学校4・5・6年の国際理解教育(外国語活動)の事例研究
  - ・中学校における授業時数の事例研究

#### 5 奨学金の滞納に積極的な対応を図る。

- 強化月間をもうける。(全課体制で対応を図る。)
- 通常返還者の滞納「0」を目指す。
- 欠損不納等の処理方法を検討する。

#### 6 生涯学習

- ① 「HAKONE大学」のあり方や運営方法を検討し、早急に体系図を作成する。
- ② 各学習施設の機能を充実させ、相互に連携を図るとともに、学習機会の啓発を行う。
- ③ ボランティア活動の積極的導入を図る。
- ④ 町民への「知的財産」の周知方法について検討し、早急に実施する。
- ⑤ 箱根子ども図書館への支援

#### 7 文化遺産の保護・活用

- ① 町内の文化遺産の調査を実施し、その結果を踏まえて指定や登録を推進する。
- ② 天然記念物については、引き続き現地調査を実施して現状把握に努めると共に、将来に向けた保護計画の策定及び実施をする。
- ③ 史跡をはじめとする文化財について、これまで実施した整備事業の成果を維持しつつ将来にわたり保護していくため、それぞれについて維持管理計画を策定し、実施をする。
- ④ 町内の文化財を活かした学習活動を、さらに広げていく。
- ⑤ 町内の文化遺産に関する情報を、ホームページやハンドブックなどを利用して積極的に公開する。
- ⑥ 文化財の保護活動に対して、積極的にボランティア参加を促進する。
- ⑦ 郷土資料館企画展開催をとおして、町の文化遺産を広く紹介する。
- ⑧ 旧箱根小学校跡地利用としての郷土資料室開室に向け、その方針を検討する。

平成21年度

# 箱根教育の概要

箱根町教育委員会

# 箱根教育の概要 ※学校教育における一貫教育部分

箱根教育とは、  
地域教育、箱根ミニマム、情報教育、国際理解教育、心の教育の総称

- 箱根教育を実施し、「確かな学力を保障する学校」  
「子どもたちが元気に楽しく通える学校」をつくります。

## 1 地域教育

- 箱根の自然・歴史・伝統文化、産業等を学習素材として活用する教育  
↓  
箱根のことを知り、箱根のことを語れる 子どもの育成
- ◆ 地域素材を教材化した授業実践  
【資料】『箱根教育 地域素材を教材化した授業実践資料集』（平成19・20年度版）  
各学校1部配付
- ◆ 各学年における必須指導事項に基づく授業  
・学芸員、専門家等と連携した授業の展開  
【資料】「箱根教育 地域教育 必須指導事項一覧」 p. 11  
「地域教育に係る必須指導事項（展開案）」 p. 12 ~ p. 32

## 2 箱根ミニマム

- すべての学習を成立させる上で必須の基礎的な知識・技能
- 他の学習への波及効果が大きく期待されるもの  
↓  
漢字の読み・書き、読書、音読、計算の定着 を重点項目として指導する教育
- ◆ 漢字の読み・書き、読書、音読、計算の具体的な目標に到達する教育活動  
【資料】「箱根ミニマム」 p. 33  
「箱根町で実施する調査」 p. 34

## 3 情報教育

- コンピュータを活用した体系的な情報教育  
↓  
情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度の育成
- ◆ 年間カリキュラム（情報モラル教育含む）に基づいた実践  
・小学校1年 …………… 7時間  
2年 …………… 8時間  
3～6年 …………… 10時間  
【資料】『平成21年度 情報教育年間計画』 各学校1部配付
- ◆ 新聞展の実施（平成22年2～3月）  
・小学校6年生段階における情報収集、活用能力の向上  
【資料】『平成21年度 情報教育年間計画』 各学校1部配付

## 4 国際理解教育

- 外国語（英語）を体感的に学ぶ授業



外国人と積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成

- ◆ 年間カリキュラムに基づいた実践（ALT派遣時間数）

・ 小学校低学年	……………	15時間	{ うち3時間 うち5時間 うち5時間 }	は、よろこそ箱根に
・ 中学年	……………	20時間		
・ 高学年	……………	25時間		

【資料】『平成21年度 小学校英語活動年間計画』 各学校1部配付

## 5 心の教育

- 学校版「おもてなしの心」を行動目標として実践する教育



「おもてなしの心」が実践できる  
子どもの育成

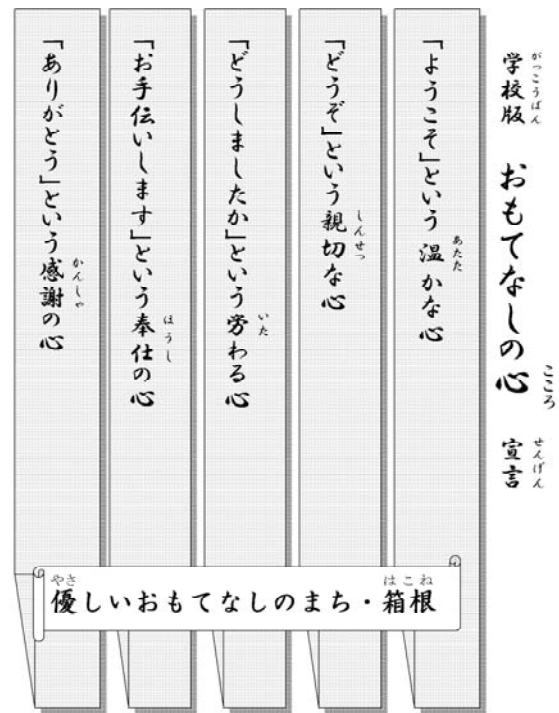
- ◆ 「おもてなしの心」の日常化
  - ・ 「よろこそ」という温かな心
  - ・ 「どうぞ」という親切な心
  - ・ 「どうしましたか」という労る心
  - ・ 「お手伝いします」という奉仕の心
  - ・ 「ありがとう」という感謝の心

## 6 その他

- 分かる授業、楽しい授業の基盤づくりがされた授業

- ◆ 基本的な指導技術を身に付けた教師  
【資料】「授業評価の視点」 p. 35

- ◆ 基本的な学習姿勢を身に付けた子ども  
【資料】「学習への姿勢 ミニマム」  
p. 36



箱根教育 地域教育 必須指導事項

学年	教科	指導月	単元名	指導時間	配当時数	指導内容	連携先等
1～2年	生活	1月	箱根子どもかるたをたのしもう	2		○町制50周年記念「箱根子どもかるた」を友達と共に楽しむ、約束やルールを守って遊ぶ楽しさ	○町制50周年記念かるた
3～4年	社会	5月	安全なくらしとまちづくり 火事をふせぐ	6	6	○箱根町における火災から人々の安全を守るための工夫や努力	○消防署
		6月	健康なくらしとまちづくり 水はどこから	10	10	○箱根町の人々にとって必要な飲料水を確保するための対策や事業	○浄水場
		9月 11月	ごみはどこへ 昔のくらしとまちづくり 昔のくらし	9 7	9 7	○箱根町のゴミの処理にかかわる対策や事業 ○古くから残るくらしにかかわる道具、それらを使っていたころの様子	○環境センター ○郷土資料館 学芸員
		12月	まちを開く	8	8	○地域の発展に尽くした先人の働きや苦心	
5年	行事 (社会)	5月 (3月)	水産業の盛んな地域 (育てる漁業にはげむ人々)	6 (2)		○芦ノ湖のニジマスの採卵受精と放流 ※必：箱根の森小学校(行事のねらい、実施学年、内容は組合と相談して実施) ○(ワカサギの栽培漁業) ※参考教材	○芦之湖漁業協同組合
6年	社会 総合 音楽 社会	12月	箱根の歴史と我が国の歴史	4		○箱根の歴史 ※日本の歴史と関連付けながら ○短歌と俳句	○学芸員による講話
			箱根八里	1	1	○歌唱指導	
			人々の願いとまちづくり	1	5	○税金の役割	○税務署員による講話
1～6年	英語活動	通年	ようこそ箱根へ	3 5	低15、中20、高25	○ようこそ箱根に	○ALT
中学1年	社会	9月	身近な地域を調べよう ～地形図を使って～	2	7	○特色ある地形と土地利用の様子(集落の広がりや交通路)、新旧の地図の比較による町の変化	○5万分の1, 3000(2500)分の1の地図、箱根町都市整備課
	理科	1月	大地の変化(火山)	3	7	○箱根火山とマグマの性質、箱根火山の成り立ち 造岩鉱物の特徴(箱根火山噴火による火山灰等椀がけしたもの)	○地球博物館学芸員との連携による実験、観察等
	美術	2月	心のイメージを形に	2	4	○芸術家による美術作品のよさや美しさ ※夏季休業中に町内各美術館で学習を深める(美術部)	○学芸員(彫刻の森美術館) ※ポーラ、成川美術館
3年	行事 社会	5月 12月	森林浴ウォーク 租税・地方財政	8 1	4	○森林浴ウォークボランティア ○箱根町の財政状況	○箱根町生涯学習課 ○講師は、町当局者(町長または副町長)。講話
	家庭	2月	いろいろな人と楽しむ会食	3		○正式なテーブルマナー ※1、2年次学習内容の発展的内容	○ホテルの専門家による指導
	1～3年	総合	通年	キャリア学習 (生き方学習の一部)	1年28 2年26 3年35	各学年70	○職場訪問、福祉体験(1年) ○職場体験(2年) ○プロジェクト学習(3年)

※箱根の森小、箱根中学校：閉校になった学校の校歌

小学校 第1学年 生活科

1 小単元名 箱根子どもかるたをしよう

2 履修時期 第3学期 1月

3 学習内容〔2時間（1時間×2） 箱根子どもかるたをたのしもう〕

4 本時の目標

- 町制50周年記念「箱根子どもかるた」を友達と共に楽しみ、約束やルールを守って遊ぶと楽しいことに気づくことができる。

5 授業の展開

① 「箱根子どもかるた」のやり方を確かめる。

例・4人一組になってカルタとりをすること。

- ・机を4つくっつけて行う場合はそれぞれに11枚ずつ配り相手に近いほうに並べる。
- ・読み札は、読み仮名が付いていない札もあるので、先生が読むこと。
- ・読み札のはじめのひらがなのついた取り札を取ること。
- ・取った札は、手前に重ねておいておくこと。

② 約束やルールを確かめる。

例・取る手を宙に浮かすことをせず、机のはじ、または、畳や腿においておくこと。

- ・まちがって、違う札に手を触れてしまった（おてつき）ときは、今までに取った札を一枚場に戻すこと。一枚もとっていない場合は、そのまま進める。
- ・2人が同じ札を取ろうとしたときは、少し遅かったと思った方が「どうぞ」と譲ること。
- ・そばで見ていた友達の判断に素直に従うこと。
- ・まったく同時のときは、小さい声のじゃんけんで決めること。
- ・負けそうになっても、最後までいっしょうけんめい取ろうとすること。

③ 先生に読み札を読んでもらいながら、箱根子どもカルタを楽しむ。

※最後まで読むと激しい単なる取り合いになるので、読む枚数は41枚とし、残り4枚になったら、「最後の一枚とします」と予告して読むようにする。

- ・各自に枚数を数えさせると共に、楽しくできていたグループ、正直に先に手を触れた相手にカルタを渡していた子、多く取れなくとも最後までいっしょうけんめいやろうとしていた姿等を認める。

④ グループ、相手を変えてもう一回戦行う。

※ 次の生活科の時間にも、もう一度行うことを予告し、期待を持たせて終える。

※ 2対2のペア対抗の形などルールを工夫することもできる。

※ 次時までの間の国語で、音読シートを讀みの練習等に用い、繰り返し音読を扱っておくことで、理解が深まるとともに、自分たちも読み手の役割を務めてみたいという思いを持って、休み時間等にも楽しむことにつながると思われる。

小学校 第2学年 生活科

- 1 小単元名 箱根子どもかるた大会を開こう
  - 2 履修時期 第3学期 1月
  - 3 学習内容〔時間（1時間×2） 箱根子どもかるたをたのしもう〕
  - 4 本時の目標
    - 町制50周年記念「箱根子どもかるた」を自分たちが読み手になりながら、友達と共に楽しみ、約束やルールを守って遊ぶと楽しいことに気づくことができる。
  - 5 授業の展開
    - ① 「箱根子どもかるた」のやり方を確かめる。
      - 例・1年生のときは、先生に読み札を読んでもらっていたが、2年生では、グループの中で順に読み手になっていくこと。
      - ・4人（5人）一組になってカルタとりをすること。3人（4人）がすわって札の取り手、一人が読み手。読み手のローテーションを決めておく。読み手は、10枚（8枚）ずつ交代で全員が経験すること。（読み札は裏返しにしておき10枚（8枚）ずつに分けておく。※最後まで読むと激しい単なる取り合いになるので、読む枚数は40枚とし、残り4枚は、裏返しにしたままにしておく。
    - ② 約束やルールを確かめる。
      - 例・はっきりとグループの友達に聞こえるように読むこと。
      - ・取る手を宙に浮かしておかないよう、机のはじ、または、畳や腿においておくこと。
      - ・まちがって、違う札に手を触れてしまった（おてつき）ときは、今までに取った札を一枚場に戻すこと。一枚もとっていない場合は、そのまま進める。
      - ・2人が同じ札を取ろうとしたときは、少し遅かったと思った方が「どうぞ」と譲ること。まったく同時のときは、小さい声のじゃんけんで決めること。
      - ・そばで見ていた友達の判断に素直に従うこと。
      - ・負けそうになっても、最後までいっしょうけんめい取ろうとすること。
    - ③ 輪番で読み札を読みながら、箱根子どもカルタを楽しむ。
      - ・各自に枚数を数えさせると共に、楽しくできていたグループ、正直に相手に渡していた子、最後までいっしょうけんめいやろうとしていた姿等を認める。
    - ④ グループ、相手を変えてもう一回戦行う。
- ※ おじいさん、おばあさんを招いて一緒に楽しむカルタ大会を開きたいなど、児童の思いや願いを生かした活動の展開も考えられる。
- ※ カルタ大会前の国語の時間に、カルタをすらすら読むことができるよう音読・暗唱シートを活用したり、箱根子どもカルタの絵を見ながら、暗唱できたら□に色を塗らせたりするなど、カルタ大会に自信を持って参加できるように、意欲を高める関連的な指導をしておく。



箱根子どもかるた 音読・暗唱シート

なまえ

- あ〇 あしの湖こに 花火はなびがたくさん 輝かがやいた
- い〇 いつまでも 残のこってほしいな この自然しぜん
- う〇 うつすらと 湖面こめんに映うつる さかさ富士ふじ
- え〇 えき伝でんの 箱根はこねのゴール もうすぐだ
- お〇 おみやげに 寄木細工よせぎさいくを 手てにさげて
- か〇 かんこう客きやく たくさん来くると にぎやかだ
- き〇 きらきら光ひかる 芦あしノ湖この水みずは きれいだな
- く〇 くもがわく おおわく谷だにの 岩いわはだに
- け〇 けしき良よく どんな季節きせつも 美うつくしい
- こ〇 この箱根はこね 緑みどりにそまる 自然しぜんかな
- さ〇 さわやかな えがおとみどり はこねのこ
- し〇 しもやけに 箱根温泉はこねおんせん ききますよ
- す〇 すさわ坂さか こんなところに かにみつけ！
- せ〇 ぜえぜえと のぼる山々やまやま みてごらん
- そ〇 そう雲山うんざん 登のぼって行くよ ケーブルカー
- た〇 たびさきは やっぱりはこねに きまりだね
- ち〇 ちらちらと きれいに散ちるよ 山桜やまがけくわ
- つ〇 つき見たら 温泉おんせんまんじゅう 思おもいだす
- て〇 てくてくと 歩あるいていこうよ おんせんに
- と〇 とことこと あるいてごらん みやのした
- な〇 なつとく！と 相手あいてもみとめる 知恵者ちえしや 早雲そううん
- に〇 にじかける 飛流ひりゅうの滝たきの 水みずしぶき

- ぬ〇 ぬけ道みちは 許ゆるしませんよ 箱根はこねの関所せきしよ  
ね〇 ねがいひとは一つ 箱根はこねの自然しぜんを 守まもること  
の〇 のんびりと ゆったりできる 温泉地おんせんち 箱根はこね  
は〇 ハコネバラ 自然しぜんのきれいな 町まちの花はな  
ひ〇 ヒメハルゼミ 箱根はこねの天然記念物てんねんきねんぶつ  
ふ〇 ふしぎだな いつもちがうね はこねやま  
へ〇 へんなにおい だけどおいしい 大涌谷おおわくだにのくろたまご  
ほ〇 ほかほかと お湯ゆがわいてる 箱根七湯はこねななゆ  
ま〇 まなつの火ひ 大文字山だいもんじやまに うかぶ大だい  
み〇 みまわせば 箱根はこねの山やまが きれいだな  
む〇 むしがすき はこねの山やまが せみをよぶ  
め〇 めがぎよろり ゆだてししまい おどりだす  
も〇 もくもくと おおわくだでにに ゆげでが出る  
や〇 やまの景色けしき いつも変わかって 美しいうつく  
ゆ〇 ゆうらん船せん かぜにゆられて ときすぎる  
よ〇 よせぎざいく 自然しぜんがつくった めいさんひん  
ら〇 らくらくと ロープウェイの 空そらの旅たび  
り〇 りっぱだな 箱根はこねの自然しぜん 美しいうつく  
る〇 るんると 山やまをのぼって たのしいな  
れ〇 レストラン あしあしのこみながら おいしいしよくじ  
ろ〇 ロマンスカー せかいせかいのきやくが ゆもとまで  
わ〇 わたしたち 箱根はこねの自然しぜんが お気きに入りい

〇・・・すらすら読よむことができたなら、〇に色いろをぬりましょう。

□・・・絵札えふだを見て言いえるようになったら、□に色いろをぬりましょう。

小学校 第3・4学年 社会科

- 1 項目 箱根町の一員としての自覚をもち、箱根町に対する誇りと愛情を育てる内容
  - ア 箱根町の特色ある地形,土地利用の様子,主な公共施設などの場所と働き,交通の様子,古くから残る建造物
  - イ 地域の人々の健康な生活や良好な生活環境を守るための諸活動
  - ウ 地域の人々の安全を守るための諸活動
  - エ 古い道具,文化財や年中行事,地域の発展に尽くした先人の具体的事例
  - オ 箱根細工など今でも優れた技術が継承されている地場産業
  - カ 外国や他県から観光客を招き入れるなど国内の他地域や外国と結びついていること
  
- 2 学習内容に対して取り入れたい視点 「観光立町としての箱根町」
  
- 3 箱根町にかかわる基本データ・・・データは、箱根町ホームページ「町のデータ」より
  - ア 箱根町の特色ある地形,土地利用の様子,主な公共施設などの場所と働き,交通の様子,古くから残る建造物に関連して

[公共施設の利用総数]

公民館名	平成 18 年度の 利用件数	平成 19 年度の 利用件数
社会教育センター	931	971
温泉公民館	102	103
宮城野公民館	263	233
仙石原公民館（文化センター）	1137	1074
元箱根公民館	173	146

統計はこね平成 20 年版 P 1 1 3（わたしたちのまち はこね P 2 1）

施設名	平成 18 年度の利用者数	平成 19 年度の利用者数
さくら館 プール利用者数	25,106 人	24,974 人

統計はこね平成 20 年版 P 1 1 4

施設名	平成 19 年度の利用者数	利用者の内訳
総合体育館レイ クアリーナ	45,347 人	町内者 12,317 人 町外者 33,030 人

統計はこね平成 20 年版 P 1 1 4

[古くから残る建造物]

件名	分類	種別	指定年月日	所在
石造五輪塔（俗称曾我兄弟之墓）	国	建造物	昭和 28. 8. 29	元箱根
石造五輪塔（俗称虎御前之墓）	国	建造物	昭和 28. 8. 29	元箱根
石造宝篋印塔（俗称多田満仲之墓）	国	建造物	昭和 36. 3. 23	元箱根
福住旅館萬翠楼・金泉楼	国	建造物	平成 14. 12. 26	湯本
富士屋ホテル本館・一号館・二号館・ アイリー・花御殿・食堂・菊華荘	国登録	建造物	平成 10. 1. 8	宮ノ下 359
吉池旅館別荘（旧岩崎弥之助別邸和館）	国登録	建造物	平成 10. 12. 25	湯本 597-1
箱根登山鉄道早川橋梁	国登録	建造物	平成 11. 7. 19	塔之澤～大平台
三井翠松園（旧三井高達別荘）本館	国登録	建造物	平成 12. 12. 20	小涌谷 524
環翠楼本館北棟、本館南棟、別館	国登録	建造物	平成 13. 9. 14	塔之澤 88
神山荘（旧藤山雷太別荘）	国登録	建造物	平成 13. 10. 29	強羅 1300-92
箱根小涌園貴賓館（旧藤田平太郎別荘）、迎賓館	国登録	建造物	平成 13. 12. 4	二ノ平 1297
白雲洞茶苑白雲洞、不染庵、寄付、 白鹿湯、対字斎	国登録	建造物	平成 13. 12. 4	強羅 1300-69
正眼寺本堂（旧今村繁三別荘）、庫裏	国登録	建造物	平成 14. 3. 12	湯本 562
福住旅館別荘主屋、石蔵	国登録	建造物	平成 15. 4. 8	湯本 613
福住楼主屋・茶室	国登録	建造物	平成 15. 4. 8	塔之澤 74
出山堰堤	国登録	建造物	平成 16. 8. 17	大平台
観音坂堰堤	国登録	建造物	平成 16. 8. 17	湯本茶屋
箱根湯本ホテル暁亭	国登録	建造物	平成 17. 8. 2	湯本
箱根太陽山荘本館・別館	国登録	建造物	平成 18. 12. 19	強羅 1320-374, 375

箱根の文化財ホームページより（わたしたちのまち はこね P 8 3）

〔乗り物別の乗降客数〕

乗り物名等	平成 18 年度	平成 19 年度
早雲山ケーブルカー	2,448,148 人	2,844,464 人
箱根ロープウェイ	2,564,242 人	3,578,814 人
駒ヶ岳ロープウェイ	765,748 人	716,619 人
箱根観光船	2,352,758 人	3,103,434 人
伊豆箱根船舶	1,092,324 人	927,912 人
箱根登山鉄道 箱根湯本駅	4,275,215 人	4,327,698 人
強羅駅	2,377,060 人	2,511,371 人

統計はこね平成 20 年版 P 5 6, P 5 9, P 6 0

イ 地域の人々の健康な生活や良好な生活環境を守るための諸活動に関して

〔水道の使用量〕（平成 19 年度 年間有収水量）

町営水道 2,093,230 m<sup>3</sup>（一日一人 961ℓ）

県営水道 2,744,254 m<sup>3</sup>（一日一人 1,131ℓ）

統計はこね平成 20 年版 P 5 3（わたしたちのまち はこね P 5 8）

〔ごみ搬入状況〕

	平成 18 年度のごみ搬入量	1 日あたり搬入量
平成 16 年度	20,131.48 トン	55.15 トン
平成 17 年度	19,799.66 トン	54.24 トン
平成 18 年度	19,892.40 トン	54.49 トン
平成 19 年度	19,190.42 トン	52.57 トン

統計はこね平成 20 年版 P 6 3（わたしたちのまち はこね P 8 6）

〔ごみ処理の概要〕

平成 18 年度実績	一人一日当たりの排出量 （年間総排出量/人口/365）
箱根町	3,930 g
神奈川県平均	1,066 g

県勢要覧平成 19 年版 P 351

ウ 地域の人々の安全を守るための諸活動に関して

〔消防力の現況〕

町名	平成 19 年度の 人口	消 防 吏員	救 急 自 動 車数	消 防 ポ ン プ車	消防団員	消火栓	防 火 水槽
大磯町	32,776 人	42 人	3 台	8 台	169 人	293	94
二宮町	29,715 人	40 人	2 台	7 台	178 人	297	66
箱根町	13,788 人	98 人	5 台	13 台	343 人	462	267

県勢要覧平成 19 年版 P 371・箱根町の詳しい数値は、統計はこね平成 20 年版 P 9 6

〔火事の件数〕

	平成 16 年	平成 17 年	平成 18 年	平成 19 年
建物	6	7	6	6
車両	4	6	5	3
林野	0	0	0	0
その他	2	6	2	5
合計	12	19	13	14

統計はこね平成 20 年版 P 9 8 (わたしたちのまち はこね P 6 7)

〔事故件数〕

〔窃盗〕

年度	発生件数
平成 17 年	189 件
平成 18 年	156 件
平成 19 年	122 件

統計はこね平成 20 年版 P 9 2 (わたしたちのまち はこね P 7 2)

〔交通事故〕

年度	交通事故	死者	傷者 人
平成 17 年	205 件	3	309
平成 18 年	220 件	1	333
平成 19 年	178 件	6	254

統計はこね平成 20 年版 P 8 9 (わたしたちのまち はこね P 7 0)

カ 外国や他県から観光客を招き入れるなど国内の他地域や外国と結びついていることに関して

〔箱根を訪れる観光客の数〕

	観光客総数	外国人宿泊客
平成 17 年	18,905,000 人	71,794 人
平成 18 年	19,250,000 人	105,097 人
平成 19 年	20,262,000 人	149,974 人

統計はこね平成 20 年版 P 3 1 (わたしたちのまち はこね P 3 6)

〔神奈川県観光客数〕(平成 18 年度)

	観光客数	宿泊客数	日帰り客数
①横浜市	39,956,000 人	4,571,000 人	35,385,000 人
②箱根町	19,250,000 人	4,618,000 人	14,632,000 人
③鎌倉市	18,455,000 人	298,000 人	18,157,000 人

県勢要覧平成 19 年版 P 446

〔宿泊施設数〕総数(旅館・ホテル、寮・保養所、ペンション・民宿等)軒数

平成 13 年	654	平成 17 年	575
平成 14 年	612	平成 18 年	549
平成 15 年	570	平成 19 年	523
平成 16 年	575	平成 20 年	507

統計はこね平成 20 年版 P 3 0 ほか (わたしたちのまち はこね P 3 7)

小学校 第5学年 社会科

1 単元「水産業のさかんな地域をたずねて」（参考教材 ※体験学習実施が難しくなったことから）

2 単元の目標

- 水産業に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸の働きについて調べ、食料を確保するわが国の水産業の意味やそれらの産業と自然環境との関連を考える。

3 学習指導要領との関連

学習指導要領解説社会編の第5学年の内容（1）のうち、「食料生産に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸の働き」について水産業のさかんな地域の具体的事例を通して学習することになっている。その際、漁業技術の改善に努めるとともに、水産資源の保護、育成を図るために栽培漁業に取り組んでいる事例などを取りあげられることが考えられる。

芦ノ湖のワカサギは、大正7年に霞ヶ浦から移植されて現在に至るまで大切に保護育成されてきたもので、昭和60年、平成18年にかながわの名産100選に選ばれている。芦ノ湖ではワカサギの増殖を図るため、1982年より自湖産親魚から受精卵を得るための技術開発を継続し、その結果、親魚採捕方法の改良により、成熟した雌魚が効率よく採捕できるようになった。

また採卵方法については、芦ノ湖で開発された水槽内自然産卵法の実用化により、効率的に受精卵が得られるようになり、高い発眼率の受精卵を容易にしかも多量に確保できるようになった。

そして孵化方法の改善については、流水式で高密度に収容できる孵化装置により期間中7億粒以上の孵化が行われるようになった。

一連の技術開発や改良により大幅な労力の省力化と経費の節減が図られ、1997年以降ワカサギの漁獲量が認められ、平成19年に第27回全国豊かな海づくり大会功績団体として栽培漁業部門で表彰されたところである。

このように「食料生産に従事している人々の工夫や努力」を調べる学習として、有効な教材となり得るし、近年、受精卵を全国各地へ出荷するようになったことから、鮮度を保ちながら早く届ける運輸の働きについても今後調べることができると考えられる。

4 本時のねらい（6，7／7時間）

- ワカサギの栽培漁業に携わる人たちの工夫や努力について調べ、水産資源を守り育てながら、計画的・安定的に水産物をとることの大切さを理解することができる。

5 指導計画（展開例）（2時間扱い）

過程	主な学習活動・内容	指導上の留意点
① 意欲付け	<p>問：かながわ名産100選に、箱根から選ばれているものが2つあります。 1つは箱根寄木細工、もう一つは何でしょうか。</p> <p>ヒント：「公魚」と板書する。 説明：毎年10月1日の刺網解禁日に初漁のワカサギは箱根神社に奉納し、宮内庁に献上されている。 説明：ワカサギの栽培漁業の年間スケジュール 刺網（10月）→採卵→ふ化→放流（3～4月）</p> <p>問：基本的な問題です。わかさぎの卵はどこからとっているのでしょうか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料：かながわの名産100選。</li> <li>・資料：商品チラシ</li> <li>・大きく4つの行程を板書する。</li> </ul>

<p>②</p>	<p>事実認識</p>	<p>答え：2001年は、北海道から6億粒、諏訪湖から5千万粒、芦ノ湖から2億5千万粒。                  (副読本『はこね』p.52の円グラフより)                  C：芦ノ湖のわかさぎとして有名なのに、2001年の卵は芦ノ湖産だけではないことがわかる。                  どうして、芦ノ湖産の卵が少ないのかな。                  漁協の方は、芦ノ湖産の卵を増やしたいのではないかな。                  T：安心してください。現在(2007年)は、100%芦ノ湖産の卵からふ化・放流されています。                  ○ ビデオにより、3月にふ化・放流が行われている様子を見せる。(たくさんの卵からふ化している魚の様子のみ)                  (ワカサギの放流量と漁獲量のグラフより)                  ○ 放流量(卵換算(粒))が2002年以降減っているにもかかわらず(しかも従事者が少ない中)、漁獲量が増え安定していることから、採卵した卵やふ化の過程に秘密があることを予想させたい。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【学習問題】芦ノ湖では、味日本一といわれる質のよいワカサギをどのようにして増やしてきたのだろうか</p> </div> <p>○ 他地域から卵を入れていた時期も、芦ノ湖のワカサギは高い値段で取引されていたことにより、恵まれた自然環境とも関連があることに気付かせたい。                  ○ 一昔前に行われていたワカサギ親魚の採捕・採卵・ふ化放流方法の写真をみて、現在はどのような方法で行われているか、ワークシートに調べたことをまとめる。                  ・採捕方法 → 刺網、改良型小型定置網                  ・採卵方法 → 水槽内自然産卵法                  ・孵化放流方法 → 流水式高密度孵化装置                  ○ 新しい方法は、どのような点で優れているのか、漁協組合関係者(ゲストティーチャー)の話聞き、工夫や努力していること、仕事にける思いについて再度まとめ直す。                  ○ 今後の課題となっていることについても話を聞く。                  ・後継者問題。                  ・費用面(人件費)。                  ・網のメンテナンス等                  T：現在は、2億5千万粒の卵を全国各地へ送り出していることや、いわゆる芦ノ湖方式といわれる増殖技術を同業の悩みを抱える人々に提供していることから、仕事に対する思いや姿勢を児童に紹介し、授業を終えたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・円グラフを用意する。</li> <li>・ビデオ                      (技術にかかわる部分はこちらでは見せない)</li> <li>・グラフから仮説を立てさせたい。</li> <li>・漁協組合員数にも触れる。</li> <li>・第27回全国豊かな海づくり大会功績団体として栽培漁業部門で表彰</li> <li>・1985年第2号公共下水道完成。</li> <li>・DOP調査経年変化(県大気水質課)</li> <li>・絵や文章でまとめられるようなワークシート</li> <li>・時間が確保できる場合は蛭川養魚場の見学を組み入れる。</li> <li>・ゲストティーチャーとして来校できない場合は、事前に話をビデオ撮りしておく。</li> <li>・芦ノ湖産の総採卵量は7億7千万粒(2007年)</li> <li>・「おかげさまで」という言葉をいただければという漁協の方の気持ちを心の教育としても生かしたい。</li> </ul>
	<p>問題把握</p> <p>調べる</p> <p>まとめる</p>		

○ ワカサギを遠く消費地に届けることはしていないが、鮮度を保ちながら卵を他の生産地へ届けていることから、今後「生産地と消費地を結ぶ運輸の働き」を調べる手がかりとしていきたい。



## 小学校 第5学年 社会科

- 1 小単元名 人々の願いとまちづくり（4時間）
  - 2 履修時期 3学期 1月
  - 3 学習内容〔税務署職員による租税教室 租税の役割についての正しい認識 1時間〕
  - 4 本時の設定にあたっての配慮事項
    - 政治の働きと国民生活との関係を具体的に指導する際に、租税の役割について取り上げるよう配慮することが大切である。租税については、高齢化社会を迎えるにつれて、税金についての正しい理解と認識を持たせる指導は、一層重要になってきている。
 

税に関する指導に関しては、足柄下郡租税教育推進協議会が資料配布とともに、租税教室を開催している。租税教室については、各小学校に1学期の早い段階で案内が小学校宛に送られてくるので、各学校で「人々の願いとまちづくり」の単元に合わせ日程を考慮し、**5月末日までに租税教室に対する回答書を小田原税務署総務課に返信する。**

政治の働きと税金の使われ方等に関しては、「学習が抽象的にならないよう、また、調べる事例が網羅的にならないように、児童の関心や地域の実態に応じて、社会保障、災害復旧の取組、地域の開発などの中から事例の一つを選択して取り上げ、具体的に調べるようにする」ことが示されている。あらかじめ選択する事例について学習が具体的に展開できるよう資料等を収集しておく。

また、租税教室の位置づけについては、国や県、箱根町によって行われている選択した社会保障、災害復旧の取組、地域の開発などの内容や住民の願い等を調べた上で、その事業について、必要な費用は、どのように誰が出しているのだろうかといった問いに答える形で単元後半に設定する。あらかじめ単元計画を立てた上で日程の希望を出すようにする。
  - 5 授業の展開（租税教室概要参照）
    - ① 「税金が無くなるとどんな暮らしになるか」（ビデオ視聴）公共サービス等について
    - ② 小学生も払っている税金について
 

世界の消費税との比較
    - ③ 税金の種類
 

所得税、法人税、県民税、自動車税等、どこに納められるかの分類（国税と地方税）
    - ④ 税金の使途
 

集められた税金を国や県、町は、何に使っているのだろう。  
身近な公共施設にも使われている。  
質問、感想等
- ※ 上は例であり、具体的な実施方法については、計画によって内容に加えてほしいこと等を直接担任からお願いすることができる。

## 中学校 第1学年 社会科（地理的分野）

### 1 単元「身近な地域」

#### 2 履修時期 第1学期（7月）もしくは第2学期（9月）

#### 3 単元の目標

- (1) 縮尺の大きな地図を活用し、縮尺、地図記号、等高線、土地利用、地形などの読みとりを通して、地図の活用技能を高めるとともに身近な地域に関する様々な事象に気付く。
- (2) 新旧の国土基本図を比較したり、地域に広がる景観に着目したりして身近な地域に関する地理的事象を見出し、それらを基に適切な調査テーマを設定することができる。
- (3) 設定した調査テーマの追究を通して、市町村規模の地域的特色をとらえる視点や地域調査の方法を理解し、その知識を身に付ける。
- (4) 身近な地域の特徴を追究し考察した過程やその結果がわかるように、地図化や統計資料のグラフ化などの地理的なまとめ方や表現の方法などを理解し、その技能を身に付ける。
- (5) 身近な地域の特徴を、地域の環境条件、他地域との結び付き、人々の営みに着目してとらえるとともに、身近な地域の発展に努力しようとする態度を育てる。

#### 4 単元のねらい（学習指導要領との関連）

学習指導要領解説社会編の地理的分野にある大項目（2）「地域の規模に応じた調査」の中項目については、直接経験地域の地理的事象を学習対象として、観察や調査などの活動を通して、身近な地域に対する理解と関心を深めさせるとともに、市町村規模の地域的特色をとらえる視点や方法を身に付けさせることを主なねらいとしている。

この中項目では、次の3つのことが習得できるよう授業を展開していくこととしたい。①縮尺、地図記号、等高線の引かれ方など、地形図を読みとる際に必要な基礎的知識や技術等の習得、②野外観察、聞き取り調査、統計資料の読み取りなどの調査方法の習得、③地域の環境条件、他地域との結びつきや人々の営みと関連づけて市町村規模の特徴を考える視点や、地図・グラフへの表し方といった地理的なまとめ方や発表方法の習得。

#### 5 地域教材

- ・ 「箱根」2万5千分の1の地形図（国土地理院 平成14年発行）
- ・ 3000分の1の地形図（昭和44(1969)年2月修正測量）
- ・ 2500分の1の地形図（平成13年(2001)年修正）

※ 生徒たちが実感を伴った地域理解ができるよう「国土基本図」ともよばれる2千五百分の1のスケールの地図（箱根町役場で用意されているもの）を使用し、興味・関心を持って意欲的に地域（自分の住んでいる地区周辺）調査に取り組めるようにしたい。

このスケールの地図は、観察・調査活動の事前学習や、観察・調査の記録、結果のまとめ、発表の際に、いわば「白地図」として活用することも可能である。

#### 6 指導計画（展開）（7時間扱い）

過程	主な学習活動・内容	指導上の留意点
① 意欲	○箱根町の2万5千分の1の地形図を見て、学校や自分の集落、家を探す。	○小学校の既習事項を確認しながら指導を進める。

	付 け	<p>○地形図の見方について知る。 ○地形図を基にした作業をする。 ○地形図から箱根町について気付くこと、疑問点を挙げる。</p>	
②	現 状 分 析 ／	<p>○2枚の国土基本図（2500分の1と3000分の1）を比較して、変化したことや、逆に全く変化しないことを見付け、地図上で囲む。 ・変化しているところ、していないところは何故そうなるのか変化の理由を予想する。</p>	<p>○対象地域を地形図で確認する。これまで見てきた地形図と違い、2500分の1スケールの地図は細かいところまで書かれていることを実感させる。</p>
③	課 題	<p>○見付けたこと、疑問点から調査テーマを決める。 調査内容、方法、まとめ方などについて検討する。</p>	<p>○調査目的と調査項目を明確にする。 【調査項目例】</p>
⑤	設 定 ・ 調 査	<p>○各班ともテーマに沿って調査活動を進める。</p>	<p>・観光施設（民間、公営）、旅館・ホテル、公共施設、土産物店、最寄り品店、買い回り品店、飲食店、コンビニエンスストア、住宅（集合住宅・一戸建て）駐車場、を色分けし、地図上に分布を示す。</p>
⑥	総 括	<p>○調査結果をまとめて発表する。</p>	<p>○地理的事象を鳥の目と虫の目の複眼的視点でとらえさせるようにする。</p>
⑦	括	<p>○各班がまとめ・発表した調査結果から、各調査対象地域の特徴をとらえるとともに、町全体に共通する地域の特徴として関連付けてまとめる。</p>	

7 本時のねらい（1，2／7時間）

- 箱根町の地形図の読図を通して、地図のきまりを理解することができる。  
地形図を使って、地図記号・方位・距離・等高線などを具体的に読みとることができる。
- 地形図を活用し、箱根町の各地域の特色を大観することができる。

8 本時の展開

学習活動・内容	指導上の留意点
<p>（1時間目）</p> <p>1 5万分の1の地形図から自分の居住している地域とそのまわりに広がっている土地が何に利用されているか読みとることができる。 ・建物の密集地 （湯本駅前、元箱根、小涌園、大平台、強羅）</p> <p>2 地図上の2点間から実際の距離を求める。 ・箱根湯本駅・湿生花園・箱根関所から学校までの距離はおおむねどれくらいであるのか。距離の求め方を考え、計算する。</p>	<p>○地図記号について簡単に説明し、地形図に描かれている記号が何かを判断するには凡例をまず確認することを伝える。</p> <p>○地形図のきまりについて十分定着していない場合は、方位、地図記号、距離、等高線を具体的に読み取らせながら学習を進める。</p> <p>○縮尺の表され方や等高線の間隔などについて発問し、等高線から傾斜を読みとる作業や縮尺から実際の距離を求める作業へとつなげていく。</p>

<p>3 鷹巣山へ宮の下と芦の湯から向かった場合、芦の湯からの方が時間的に短い理由を等高線の幅(場合によっては、段彩図や断面図をつくりながら)から考える。</p> <p>4 箱根町の特徴(土地利用の概要)を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集落が限られており、等高線の幅の広い、傾斜が緩やかな土地である。平らな土地が少ない。</li> <li>・農業(田、畑、果樹園)に利用されている土地はほとんどない。</li> <li>・20年前と土地利用に大きな変化が見られない。</li> </ul> <p>(2時間目)</p> <p>1 自分の住んでいる地区(もしくは近い地区)が表されている地図を(2500分の1と3000分の1)を比較して、変化したことや、逆に全く変化しないことを見付け、2500分の1地図上に○印で囲む。(例えば「湯本」の場合の一例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○現在と位置が異なる公共施設。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・箱根町役場、小田原警察署湯本派出所</li> </ul> </li> <li>○新たに作られたもの             <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光施設(箱根バゴニア園、箱根ガーデンミュージアム、日帰り温泉施設)</li> <li>・宿泊施設(ホテル)</li> <li>・住宅一軒町に家が増えた場所がある。</li> </ul> </li> <li>○名称が変わったもの             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほまれ橋→あじさい橋、箱根ハイパス→箱根新道</li> </ul> </li> <li>○現在は無いもの             <ul style="list-style-type: none"> <li>・公共施設(電信電話局)</li> </ul> </li> </ul> <p>2 変化しているものや変化していないものから地域の変化を大きくとらえる。(「芦之湯」の場合の一例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○住宅が増えている地域がある。道路も造られている。移り住んできた人が多いのかな。</li> <li>○観光施設(フラワーセンター)や環境センターが作られていることから、箱根町の人口が増えた時期と関係あるのではないかな。</li> </ul> <p>3 次時の予告をする。(見つけたこと、疑問点から調査テーマを考える。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○いつごろに建てられたどんな建物なのか。</li> <li>○町の人口の変化、ごみの量の変化を調べよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小学校6年生「箱根の歴史」で学習した湯坂路(併せて旧街道も)については、道を指でなぞり確認させる。</li> <li>○ここでは、箱根町の特徴について深入りせず、次時から縮尺の大きな地図を使って学習することを付言する。</li> <li>○2500分の1と3000分の1の地図では、示される範囲が異なるので、3000分の1の地図で示された範囲を十分確認する。 例えば、「湯本」(3000分の1)の場合、2500分の1の地図は「湯本」「湯本茶屋」「塔之沢」が必要となる。</li> <li>○変化の要因についても、予想を立てられる範囲で行う。</li> <li>○建物等が何かわからない場合は、調査で確認すればよいことを伝える。地理的事象を鳥の目と虫の目の複眼的視点でとらえさせるようにする。</li> <li>○調査シートを示す。(予告)</li> </ul>
---	--

## 中学校 第1学年 理科（第2分野）

### 1 小単元「火山」

### 2 履修時期 第3学期 1月

※ 箱根中学校の「火山」の小単元に合わせ、具体的な日程について県立生命の星・地球博物館と調整する。（窓口は、町教委学校教育課）

### 3 小単元の目標

- 火山の形や活動の様子、その火山噴出物を調べて、それらを地下のマグマの性質と関連付けてとらえる。
- 火山岩と深成岩の観察を行い、それらのつくりの違いを成因と関連付けてとらえる。

### 4 学習指導要領との関連

学習指導要領解説理科編の第2分野の内容（2）のアでは、「火山の形、活動の様子及びその噴出物を調べ、それらを地下のマグマの性質と関連付けてとらえるとともに、火山岩と深成岩の観察を行い、それらの組織の違いを成因と関連付けてとらえること。」になっている。

その際、「火山」については、粘性に関連付けながら代表的な火山を扱うこと。「マグマの性質」については、粘性を扱うこと。「火山岩」及び「深成岩」については、代表的な岩石を扱うこと。代表的な造岩鉱物も扱うこと。になっている。

火山及び火山噴出物とマグマの性質との関連を考察させるにあたっては、県立生命の星・地球博物館の学芸員さんのサポートにより、マグマの性質と火山の形をとらえられるような実験や、火山灰を洗い出した後の鉱物観察を行い、科学的に調べる能力と態度を育てていきたい。また、実験や観察を単に指示されたことを行うものでなく、その活動の意味を十分理解し、活動を通して自らの考えを導き出し、表現できるようにしていきたい。

### 5 本時のねらい

（3，4／7時間）

- マグマの粘性が、火山の形や噴火のようすと密接な関係があることをとらえることができる。
- 箱根火山がもつマグマの粘性から、どのような噴火の経緯をたどって現在の形になったのかを知る。

（6／7時間）

- 鉱物の観察を通して、鉱物の形状や色、名称をとらえることができる。

### 6 その他

- ・ 授業の細案、スライド写真等のデータは、箱根中学校理科教員が共有。
- ・ 火山噴火実験は、2時間扱いとし、2・3時限目か5・6時限目に実施することを原則とする。

7 指導計画（展開例）（7時間扱い）

主な学習活動・内容	指導上の留意点
<p>①</p> <p>○火山とは何か、火山はどんな活動をするのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・火山の噴火のようすを見ながら、噴火の特徴を話し合う。</li> </ul> <p>※地球内部にある高温のマグマが地表に吹き出してできた山。</p> <p>◆ 火山の噴出物 ※もとは、全部マグマ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・溶岩</li> <li>・火山ガス</li> <li>・火山弾、火山れき（白っぽいものが軽石）、火山灰</li> </ul> <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書 p.56～p.57 の写真を参考にしながら、火山の形にいろいろなタイプがあることに気付く。</li> <li>・箱根の中央火口丘にある○○山はどの形のタイプであるかを考える。</li> </ul> <p>○火山の形と関係するものはマグマであることを推察させマグマのどのような性質と関係があるか予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マグマの温度、マグマの粘性</li> </ul> <p>◆ 温度が高いと、粘性が低いこと。</p> <p>◆ 温度が低いと、粘性が高いこと。</p> <p>○箱根にある○○山（の形）はどのタイプのマグマからつくられたのか。それを確かめるためにどうすればよいか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・条件の異なる油を選択し、油を流して、その固まり方（形）の違いを観察する。</li> <li>・箱根の○○山は一定の傾斜、高さがあるので、粘性がある程度あると考えられる。実験でできた形から、さらに粘性について考えていくこととする。</li> </ul> <p>○次時は、マグマの性質の違いによる火山形成実験を行うことを予告する。</p> <p>③</p> <p>○火山の噴火実験を行う。「3タイプの火山をつくろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・条件をそろえた科学的な実験データとするため、A、B、Cの油の温度をそろえる。油を何（水・氷水）で何分冷やすか、すぐに使うかを守った中で実験を行う。</li> </ul> <p>④</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに、どのような火山の形になったか記録し、火山のマグマの性質について解釈する。</li> <li>・○○山は、A～Cのどのタイプの火山であるか考察する。</li> </ul> <p>◆ マグマの粘性が低いとなだらかな火山</p> <p>◆ マグマの粘性が強いとお椀を伏せたような火山になる。</p> <p>○箱根の各火山の形と粘性について説明を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・箱根火山は浸食され、噴火当時のできた形を残しているものは少ない。</li> <li>・箱根火山は複雑な成り立ちがあることをとらえる。</li> <li>・箱根火山の成り立ちを知りたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・VTRや写真等の映像資料</li> <li>・火山の噴火物の実物を用意し、その特徴をまとめさせる。</li> <li>・多孔質であることから、もともなったマグマには揮発成分（火山ガス）が多く含まれていることに気付くよう指導する。</li> <li>・粘性の高低と、火山の形（高低）の相関関係は容易に予想できると思われるが、生徒が考えられない場合は、ヒントを与えてもよい。（粘性の低い油（マグマ）による火山実験写真等）</li> <li>・油をマグマに見立てた実験方法が開発されていることを伝える。</li> <li>・○○山として、二子山、駒ヶ岳、明星ヶ岳等の写真を用意する。</li> <li>・具体的な実験の手順の説明は、学芸員が行う。</li> <li>・A、B、Cの火山をそれぞれ記録し、比較させる。</li> <li>・①時間目の映像資料と結びつけて、噴火のようすや災害と、マグマの性質の関連性をここで扱ってもよい。</li> <li>・学芸員によるスライドを使用した説明。</li> </ul>

<p>⑤</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>○箱根火山の成り立ちと火山噴出物にある鉱物の特徴をおおまかにとらえる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に説明を受けた外輪山と中央火口丘がどのようにできたのか箱根火山のおおまかな成り立ちをとらえる。</li> </ul> <p>○火山から出てきた噴出物にはどんなものが入っているのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・火山噴出物中にあるきらきらしたものが鉱物である。</li> <li>・鉱物の種類を教科書 p.58 を見て、確認する。</li> <li>・実際に鉱物を観察してみたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・箱根火山でも火砕流を起こす噴火があったことに触れる。</li> </ul>
<p>⑥</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>○火山灰を洗ってえられた鉱物を双眼実体顕微鏡で観察する</p> </div> <p>(観察の手順)</p> <p>&lt;個人観察&gt;</p> <p>ア 個人で観察し、指定された鉱物を探す。</p> <p>イ 観察したものと、鉱物名を学芸員に確認してもらう。</p> <p>ウ 探した鉱物の特徴を、ワークシートに記入する。</p> <p>エ 記入した内容を学芸員に確認してもらう。</p> <p>&lt;他の生徒が探した鉱物を観察する&gt;</p> <p>ア 他の生徒が記入したワークシートと照合して双眼鏡で観察する</p> <p>イ 見当たらないときや不明な点がある場合は、学芸員に確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 無色鉱物</li> <li>◆ 有色鉱物</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書に載っている鉱物の形と観察で見た鉱物の形は違う。</li> <li>・火山灰の中にある鉱物は、爆発時の激しさにより形がこわれてしまっていることを理解する。</li> <li>◆ マグマの粘性が強いと大爆発をする。</li> <li>◆ マグマの粘性が弱いと溶岩が火口から流れ出る。</li> <li>・しっかりとした鉱物の形を見るためにはどうしたらよいか。</li> <li>・マグマが冷え固まってできた岩石を見るとよい。</li> <li>◆ マグマが冷え固まってできた岩石を火成岩という。</li> </ul> <p>○次時は、火成岩の特徴について学習することを予告する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・火山灰はよく洗いだしたものを準備する。</li> <li>・学芸員が鉱物の結晶を見せ、観察意欲を高める。</li> <li>・主として色や形の違いに着目させる。</li> <li>・各グループで、それぞれ何の鉱物を探すのか明確にする。</li> <li>・造岩鉱物代表 6 種類 + 磁鉄鉱</li> <li>・噴火のようすや災害について、マグマの性質と関連付けて再度扱ってもよい。</li> <li>・学芸員がサンプル（岩石に入っている鉱物）を提示し説明。</li> </ul>
<p>⑦</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>○いくつか用意された火成岩の分類の基準を考える。(または、安山岩と花崗岩を観察し、そのつくりの違いを調べる)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・色合い…白っぽい、黒っぽい。</li> <li>・つくり（組織）…大きな粒だけ、小さい粒の中に比較的大きな粒からできている。でき方の違い。</li> <li>・火成岩と深成岩ができる場所や冷え方の違いと岩石のつくり（組織）との関連を理解する。</li> <li>◆ 火山岩…地表付近で急に冷えてできる。 石基 + 斑晶 → 斑状組織</li> <li>◆ 深成岩…地下の深いところでゆっくりと冷えてできる。 大きい粒だけ → 等粒状組織</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・火成岩の色の違いは、造岩鉱物の種類や含まれているそれらの割合の違いであることに気付かせる</li> <li>・鉱物の結晶のでき方を類推させるような実験を演示したい。</li> </ul>

## 中学校 第1学年 美術

### 1 単元「**心のイメージを形に** -彫刻の森美術館との連携-

#### 2 単元のねらい(題材のねらい)

美術館の機能を活かし、生徒達に美術館の面白さや本物に触れる意義を感じさせる機会として、実際に学芸員さんからの話を聞く場を設定する。専門的な話を聞くことで、普段、何気なく見ていたものが、生徒たちに大きな印象を与えるきっかけにもなると考えた。ヘンリー・ムーアやピカソなどを知ることで、抽象について少しでも理解していくことができると思った。

具体的な制作については、生徒1人ひとりの「心のイメージ」が日々揺れ動くこの時期に、あえて自分自身を見つめる時間を設定していくことで、「心のイメージ」つまり自分の感情などを様々な形に置き換え、抽象彫刻を制作していくことにした。

#### 3 単元の指導計画(全6時間)

	日	項目	内 容	備考
1	2月	学芸員さんより説明 野外スケッチ	学芸員さんに説明を受ける(ヘンリームーアのコレクション・ピカソ館)変形や簡略化をピカソ・ムーアの表現に学ぶ。 彫刻の森美術館で、個々に興味のある作品をスケッチする。実際にスケッチすることで、理解を深める。	2時間
2	2月	イメージ スケッチ	「今の自分の気持ち」など「 <b>自分の心</b> 」を分析し、表現しやすいものを形にする。 ヘンリームーアは毎日の散歩から道ばたのものを拾ってのイメージづくりをしていたとの学芸員さんの話も参考にイメージづくりに生かしていく。	1時間
3	2月	大理彫石による制作	自分の感情や個性を様々な形に置き換えて抽象彫刻を作成し変形、単純化などを、制作の過程で追究していく。	2時間
4	3月	作品の紹介(鑑賞)	作品を相互に紹介。箱根彫刻の森美術館の学芸員さんにも相互評価の授業に参加してもらう予定。	1時間

事前の単元では、世界遺産をイメージづくりに生かした空想画(デザイン技法の活用)の制作を通して、想像的な表現活動を展開していく。さらにその中のイメージづくりのモチーフとしてガラス物体(ハイライト効果)を立体の表し方に生かす表現として描き、制作する。いずれも本単元の抽象彫刻に生かしていくことができるものといえる。

事後の単元として、2年の6月頃に 個人制作した抽象彫刻(大理彫石)の中からみんなが選んだ作品を使って、共同の抽象彫刻を作成し中庭に展示する。 個々のパーツを個人制作としてつくり、みんなのものを集合体にして完成させていく。完成に向けては、夏季休業中の日程を活用して、彫刻の森の学芸員さんの意見も聞きながら展示していく。



中学校 第3学年 社会科（公民的分野）

- 1 小単元名 私たちの暮らしと財政（5時間）
- 2 履修時期 第2学期 12月  
※ 箱根中学校の「私たちの暮らしと財政」の小単元に合わせ、具体的な日程について町役場と調整する。（窓口は、町教委学校教育課）
- 3 学習内容（1時間 本時5／5時間目）  
○箱根町は年収87億円のお金持ち？』～箱根町の財政状況～（平成20年度実践版）  
町長（もしくは副町長）による講義形式の授業
- 4 本時の目標  
○ 箱根町の財政の問題についてとらえさせ、限られた財源の配分という観点から将来の町の財政の在り方（財源の確保や望ましい配分）について考えさせる。
- 5 授業の展開 ※授業に入る前に、社会科教諭から町からの出席者の紹介をお願いします。

**1 町の財政状況はどうかだろうか？豊かなのかな？**

（社会科教諭）

箱根町の財政状況について考えてきたと思います。教科書の地方財政（歳入・歳出）割合と比べて、ずばり、豊かなのかな？厳しいのかな？

「豊かか、厳しいか。」に挙手をさせ、理由を聞く。（社会科教諭）

◎＜豊か＞が多数（80％）。

- ・全国の地方公共団体の歳入と比較して、箱根町は75.8％も自主財源が確保できている。
- ・箱根町は、観光客も多く、多くの収入を得ることができる町なので豊かである。

●＜厳しい＞と思う生徒の考え

- ・後期高齢者や福祉問題があるから、厳しい。
- ・教育費が減っていることから、厳しいと考えられる。
- ・借金（町債5億円）をしてまで、予算をたてているので、町税を高くした方がよい。
- ・所得の伸びが鈍化しているので、税の収入は厳しくなることが考えられる。

「町長さんの意見を聞いてみましょう。」（社会科教諭）

<町長>

◆ **いずれの考えにしても、とらえ方は間違っていないことを認める。（町長）**

（正しい読み取りに直す必要がある場合）広報はこね p. 6, 7を見るよう指示する。

- ・財政力指数は、全国で20番以内。
- ・自主財源は82.3％。（p. 6の左下）。一般的に比較すると数字上は豊か。  
町税（75.8％）の他に、使用料及び手数料、繰入金、繰越金、その他あることを補足。
- ・教育費が減っている理由は、平成19年度は統合準備にかかるお金が多かったから。
- ・今年度、歳入で町債5億（p. 6 依存財源の表）、なぜ借金をするのか。

下水道、ゴミ、道路改修は将来にも続く施設であり、大きな事業は国から借金して、現在の町民にだけ負担させないことも必要。

## 2 限られた財源の中で予算を組むためにはどうするか

(社会科教諭)

不足する財源は、税金等を増加させることで解決するのか、支出削減で解決するのか。自分の考えを述べてください。

＜税金を増加させる取組＞を聞く。(社会科教諭)

- ・町民に係る視点…町税を増やす。フリーマーケットをやって、売上げを町に寄付する。タバコは町で買うようにする。
- ・観光客誘致の視点…温泉を宣伝して税を稼ぐ。コンビニを増やす。未使用地に設備を建設。

＜支出を削減する取組＞を聞く。(社会科教諭)

- ・ごみ処理に使うお金や、教育費、民生費を削減する。
- ・議員の数を減らす。
- ・無駄をなくす。例えば、強羅入りロトイレは必要ない。

「町長さんの意見を聞いてみましょう。」(社会科教諭)

### ◆ 町の取組について説明する。(町長)

#### □財政環境がきわめて厳しいととらえていることを説明する。(町長)

○観光客数を指摘してくれた生徒がいました。**観光客数の推移**について説明する。(別紙1)

- S. 47-2, 153万人 最初のピーク…大阪万博により旅行することが日常生活に。
- S. 50-1, 530万人 最少客数…第一次オイルショック
- H. 03-2, 247万人 最高客数…バブル経済絶頂期
- H. 10-1, 940万人 2千万人割れ…景気後退期
- H. 19-2, 026万人 2千万人回復

○次に、**人口の推移**について説明する。(別紙2)

全体として、右肩下がり。住民税は人口に大きく左右される。

町税で大きな割合を占めているのは、「固定資産税」。44億円以上。土地の値段の上げ下げは景気に左右される。なかなか上がらない。土地下落が続く中、減収が見込まれる。

「固定資産税」の説明。

#### □生徒の考え(質問等含む)に対して答えながら、説明する。(町長)

- ・税金を簡単に増やすことは難しい。  
「担税力」(板書)の問題  
社会資本つくるための都市計画税をとっていない。⇒税負担を少なくしてやっていく。
- ・行政も**無駄を省く努力**をする。  
職員の数削減、給料減。議員数の検討。
- ・観光地に観光客を**迎え入れるための環境整備**は必要。
- ・人口の少子高齢化は全国的な傾向。  
町の高齢化率(27.2%)、人口ピラミッド(逆ピラミッド)で説明。  
税金や「社会保障」に大きくかかわる問題。  
**人口定着させ増やす**ことは町の一番の課題。**生み、育てやすい環境**をつくりたい。

- ・ **住民のニーズは多様**。自らできる部分は是非やってほしい。
- ・ 観光産業に従事する人が多い。**観光**は町の中心産業であり、**環境**問題ともかかわる。  
今後4年間で、環境先進観光地として箱根の基礎を築いていく。
- ・ 少子化や環境に対する施策の充実。
- ・ コンビニ出店は町として規制はしていない。
- ・ 総務費が一番かかっているが、**地域が分散**しているため、職員の数が必要。**1/4の職員は、消防の職員**。
- ・ **町民として意識してほしいこと**。⇒ 国民の三大義務言えますか。  
教育、勤労と並び、**納税は国民の義務**である。税金の滞納（納めないこと）により、町の税収が不足すると、事業の執行に支障が生じ、住民の生活に影響を及ぼす。  
払うものはきちんと払う、住民になってほしい。

[留意点]

- ・ 少子高齢化による弊害などから財政面で将来への希望がもちにくくなっているが、社会の変化に応じた町の財政の在り方について話を伺うことで、町の課題について前向きな意識をもたせた、町の発展に寄与しようとする住民意識の基礎を育てる一助としたい。

## 箱根ミニマム

### 【重点項目】 漢字（読み、書き）、計算、読書、音読

- 5つの項目については、意識的な取組を行い、具体的な方策は各学校に任せる。
- 漢字（読み、書き）、\*計算については、達成型の目標を設定する。\*小学校のみ

### 【具体的な目標】

1 漢字読み	小学校1年～6年まで 学年別担当表の漢字が95%以上読める。 中学校1年 小学校学年別担当表の漢字が95%以上読め、 当該学年で習った常用漢字が90%以上読める。 2年 小学校学年別担当表の漢字が95%以上読め、 当該学年で習った常用漢字が90%以上読める。 3年 小学校学年別担当表の漢字が95%以上読め、 当該学年で習った常用漢字が90%以上読める。
2 漢字書き	小学校1年 学年別担当表の当該学年の漢字が90%以上書ける。 2年 学年別担当表の当該学年の漢字が85%以上書ける。 3～6年 学年別担当表の当該学年の漢字が80%以上書ける。 中学校1年 小学校学年別担当表の漢字が85%以上書ける。 2年 小学校学年別担当表の漢字が90%以上書ける。 3年 小学校学年別担当表の漢字が95%以上書ける。 ※前の学年までの数値目標も達成できるようにしていく。
3 計算	小学校2年～6年まで 繰り上がりのある足し算が確実にできる。 繰り下がりのある引き算が確実にできる。 3年～6年まで かけ算九九が確実にできる。 ※授業で使用したプリントは個人でファイルしておく。 中学校では、小学校で使用した計算問題ファイルを活用し、小学校 及び中学校での学習内容習得を目指す。
4 読書	各学校（園）で、読書（読み聞かせ）の時間を設定する。
5 音読	各教科で声を出す機会を持つようにする。

※「漢字の読み、書き」「計算」については、平成21年3月までに80%以上の児童・生徒が、達成目標の90%以上の内容に到達できることを第1目標として取り組んできました。（「学力向上に向けての取り組みについて」（平成19年5月22日付箱根町教育長通知）による）

### 【測定方法】

- 別紙「平成20年度 箱根町で実施する調査」参照

※複数回に及ぶ調査であり、指導教員は必ず個人の到達度、伸び率を確認し、児童・生徒の努力を認めるよう、また個に応じた指導の充実を図るようお願いいたします。

平成21年度 箱根町で実施する調査

2009/4/1

内容		時期	5月	10月	2月
漢字読み	小学校			○前学年配当表の漢字95%以上 + ○当該学年配当表の漢字95%以上	○前学年配当表の漢字 95%以上 + ○当該学年配当表の漢字95%以上
	中学校			○小学校配当表の漢字95%以上 + ○中学校当該学年で学習した漢字 90%以上	○小学校配当表の漢字95%以上 + ○中学校当該学年で学習した漢字 90%以上 ※3年生は除く
漢字書き	小学校			○前学年配当表の漢字( )%以上 { 2年-90%, 3年-85% } { 4年~6年-80% } + ○当該学年配当表の漢字( )%以上 { 1年-90%, 2年-85% } { 3年~6年-80% }	○前学年配当表の漢字( )%以上 { 2年-90%, 3年-85% } { 4年~6年-80% } + ○当該学年配当表の漢字( )%以上 { 1年-90%, 2年-85% } { 3年~6年-80% }
	中学校			○小学校配当表の漢字( )%以上 { 1年-85%, 2年-90% } { 3年-95% }	○小学校配当表の漢字( )%以上 (1年-85%, 2年-90%) ※3年生は除く
計算 たし算	小学校		○繰り上がりのあるたし算 確実に⇒100% 2年-横式, 3年-2けた 4~6年-3けた ※1年生は除く	○繰り上がりのあるたし算 確実に⇒100% 2年-2けた, 3~6年-3けた	○町学習状況調査…当該学年使用教科書の中の問題 から出題 ※1, 2, 4, 6年生で実施 ※3, 5年生は県学習状況調査を実施 ・詳細は、12月8日(月)の連絡会で伝達。 ※1年生は、横式のたし算、ひき算
ひき算	小学校		○繰り下がりのあるひき算 確実に⇒100% 2年-横式, 3年-2けた 4~6年-3けた ※1年生は除く	○繰り下がりのあるひき算 確実に⇒100% 2年-2けた, 3~6年-3けた	
九九	小学校		○かけ算九九 81問(ランダム) 確実に⇒100% ※1, 2年生は除く	○かけ算九九 81問(ランダム) 確実に⇒100% ※1, 2年生は除く	
計算	中学校				○町学習状況調査…当該学年使用教科書の中の問題 から出題 ※1年生で実施 ※2年生は県学習状況調査を実施

## 授業評価の視点

### 評価項目（1～10）

- 1  時間内に授業のまとめができ、終了することができた。
- 2  子どもに学習の目的がわかるようにしている。  
※学習のねらいに迫る子どもの意識の高まりがある授業。
- 3  テンポのよい授業である。  
※一部の子どもの発言で進める授業、一問一答形式の授業ではない。
- 4  はっきりとした声で、メリハリのある話し方である。
- 5  授業のねらいにあった教材の提示をしている。
- 6  発問、指示、説明が端的で適切である。
- 7  わかりやすい板書・資料提示がされている。
- 8  授業のねらいに沿わない発言や反応に対し、しっかり指導ができています。
- 9  1時間の授業の達成度がわかる工夫をしている。
- 10  目標に達しない子どもに対して適切な指導・支援がなされている。

## 学習への姿勢 ミニマム

- 1  チャイム着席ができています。
- 2  授業前に学習用具をそろえている。
- 3  人の話を最後までしっかり聞いている。
- 4  指名されたら「はい」と返事をしている。
- 5  相手を見て、最後まではっきり話している。
- 6  指示通りの作業をおくれずに行っている。
- 7  正しい姿勢で学習している。

以上の項目は：教師の指導によって、達成できるものです。  
授業のふり返しとして、用いるようにしてください。

# 平成21年度 研修等事業計画

箱根町教育委員会

事業名	日時・場所	内 容	対 象 者
◆ 基本的な研修等事業			
1 人権教育研修会	8月11日(火) 14:00~16:00 仙石原小学校	学校、家庭における人権教育の推進 【講演会】 演題 「アサーティブなコミュニケーションをとれる子どもに」(仮題) 講師：TEENSPOST 代表理事 八巻 香織氏	・幼・小・中学校 全教職員 ・参加を希望する保育士 ・参加を希望する保護者、 町民 等
2 新任・転任教職員研修会(初任者研修会を兼ねる)	7月29日(水) 9:00~16:30 郷土資料館学習室	地域学習：箱根の歴史を訪ねて 箱根関所・旧街道を中心に 講師：郷土資料館長 大和田 公一氏 ※箱根教育関連研修事業と合同	・小・中学校箱根町新任、 転任教職員
3 児童・生徒指導研修会	6月19日(金) 15:30~17:00 箱根中学校	問題行動等に対する多角的なアプローチと共通理解されたチーム支援について 講演「心の体力と問題行動」(仮題) 講師：箱根町不登校アドバイザー 鈴木 隆広氏	・中学校全教諭 ・小学校担当者、希望者 ・参加を希望する幼稚園教諭 ・参加を希望する保育士
4 特別支援教育研修会	9月11日(金) 14:30~17:00 郷土資料館学習室	特別な配慮や対応を要する児童・生徒の支援について ・学習場面で困った時の対応 ・生活場面で困った時の対応 講師 箱根町教育支援室スーパーバイザー	・小・中学校担当者 ・個別指導支援スタッフ ・特別支援学級介助者 ・幼稚園、保育園担当者
◆ 箱根教育に関連する研修等事業			
5 小中連携英語教育研究会(ALT配置校打合せ会)	①4月3日(金) ALT配置校打合せ会 16:10~17:00 郷土資料館学習室	・ALT派遣業者との打ち合わせを行い、ALT委託についての時間管理及びスケジュール管理等についての共通理解を図る。	・小・中学校教頭・担当者 ・箱根幼稚園園長・担当者
	②2月22日(月) 研究会 14:30~17:00 郷土資料館学習室	・次年度以降の小学校における外国語活動等の年間計画について、小中連携の視点から検討する。	・中学校英語教育担当者 2名 ・小学校英語活動担当者 ・ALT
6 英語指導研修会	8月25日(火) 14:00~17:00 郷土資料館学習室	・ALTとのTTによる外国語活動等の授業作り 講師 箱根町英語教育アドバイザーほか	・小学校学級担任 ・中学校英語科教諭 ・箱根幼稚園教諭・ALT



7 情報教育研究会/研修会	① 8月27日(水) 13:50~15:20 湯本小パソコン室	・新聞展に関する機器操作及び内容について見直しを持つ。 ・平成20年度作成した年間計画について	・小学校情報教育推進者 ・参加を希望する6年担任
	15:30~17:00 湯本小学校教室	・普通教室等における効果的なICT活用について	・小学校情報教育推進者 ・中学校情報教育推進者 ・参加を希望する小・中学校教諭
	② 2月15日(月) 14:30~17:00 湯本小パソコン室	・新聞展実施にかかわる事業遂行を図る。 ・平成20年度作成した年間計画について実施状況にあわせた修正等に関して協議する。	・小学校情報教育推進者 ※6年生が作成した新聞持参
◆ その他の委員会・連絡会議等			
8 箱根町不登校問題等連絡会議 (教育相談コーディネーター研修会を兼ねる)	1月29日(金) 15:00~17:00 教育支援室	・不登校未然防止等についての情報交換を行う。また、箱根町不登校アドバイザー等から専門的な助言をいただき指導の参考にする。  ※箱根町不登校アドバイザー来町日に、各小学校等で必要に応じて訪問要請を行う。	・教育支援室担当 ・小学校教育相談コーディネーター ・中学校教育相談コーディネーター ・(スクールカウンセラー)
9 就学指導委員会	① 10月22日(木) ② 1月27日(水)	・適正な就学指導	・就学指導委員 (オブザーバーとして特別支援学級担当者各校代表)
◆ 学校において実施する事業、研修等			
10 箱根の歴史生涯学習講師派遣事業	小学校6年 各クラス ※今後、各小学校と日程調整	12月11日(金) 5時間目 12月16日(水) 3, 4時間目 12月18日(金) 3時間目 ※11月後半~事前に派遣講師との打合せを各小学校で持つ	
11 箱根教育英語指導研修	小学校各校においてALTなどによる少人数等での研修 (放課後、空き時間等利用)	・英語指導のためのCDROM(19年度作成...教員研修メディア編)・箱根町ホームページ⇒各校で2人のALTにより個別または小グループレッスンによる確認 ・各小学校英語中核教員による研修	・小学校教員
	6月26日(金) (午後日程) 箱根中学校	・中学1年生の英語授業研究 箱根町英語教育推進アドバイザー訪問	・中学校全英語科教諭
12 地域教育授業実践研究		箱根の地域素材を生かした授業実践 ※箱根町教育研究会の中で実践	

<幼稚園関係事業>

事業名	日時・場所	内容	対象者
ライフステージ研修 *経験者研修 (箱根町幼児教育研究会)	5月1日(月) 14:40~ 雨天時(5月8日) 城内分校跡地	・春の草花遊び 講師 渡邊 建雄 社会教育指導員	・幼稚園教諭 (新採用研修受講者は希望) ・参加を希望する町立保育園の保育士

<三町教育委員会合同研修等事業>

事業名	日時・場所	内容	対象者
授業エキスパート養成研修 (7年経験者対象)	①6月22日(月) 14:00~ 小田原合同庁舎 ②③7月~12月 各学校 ④2月8日(月) 14:00~ 小田原合同庁舎	①全体研修Ⅰ ②公開授業 ③授業見学会 ④全体研修Ⅱ	・小・中学校7年経験者
学力向上ミドルリーダー研究	①5月27日(木) 14:30~ 小田原合同庁舎 ②2月18日(木) 14:00~ 小田原合同庁舎	①講話「子どもたちの『学ぶ力』を育てるために」~算数・数学における指導の工夫・改善のポイント~ 研究協議 ②研究報告会 講話・助言「各校の研究報告について及び学力向上に向け授業の質の改善をめざした算数・数学の授業実践の具体例」	・小・中学校の算数・数学教育推進者(TT・少人数指導担当等)
今日的課題研究	<総括教諭の部> 8月19日(水) 13:00~ 小田原合同庁舎	①総括教諭としての学校経営参画について事例研究(グループ別) 講話「民間企業における組織の統括、その進行と管理、人材育成」 講師 藤波 啓氏(野村総合研究所)	・小・中学校の全総括教諭
	<栄養職員の部> 1月6日(水) 15:00~ 小田原合同庁舎	・食育に係る授業の進め方	・小・中学校に配置されている栄養教諭、栄養士

### 箱根の就学前・小・中学校プラン(箱根教育)

		一貫教育					連携教育			
学年	地域教育	教科	箱根ミニマム (国語・算数)	情報教育	国際理解教育 (英語)	心の教育 (道徳等)	体力向上 (体育)	学校間絆	学年	
									就学前	就学前
就学前			・読み聞かせ		○ALTを派遣したTT授業 ※箱根幼	○学校版 「おもてなしの心」		・小学校体験	就学前	
小学校	1年生	生活	○各学年習得すべき最低技能  ・漢字の読み ・漢字の書き ・計算 ・読書(箱根子ども図書銀行)  ○全学年達成度調査 町独自調査(年3回)	○各学年 10時間程度	ALT派遣(15~25時間)  ※「ようこそ箱根に」を含む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・温かな心「ようこそ」</li> <li>・親切な心「どうぞ」</li> <li>・労わる心「どうしましたか」</li> <li>・奉仕の心「お手伝いします」</li> <li>・感謝の心「ありがとう」</li> </ul>	○箱根子どもアート展		1年生	小学校
	2年生	生活							2年生	
	3年生	社会							3年生	
	4年生								4年生	
	5年生	社会							5年生	
	6年生	社会 音楽 社会							6年生	
中学校	1年生	美術		技術・家庭科での指導	ALT派遣(35時間)		・部活動活性化のための指導者派遣	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町体育大会</li> <li>・体力測定追跡調査</li> </ul>	1年生	中学校
		社会							2年生	
		理科							3年生	
	2年生	総合							2年生	
		総合							3年生	
		社会								
3年生	家庭	3年生								
		☆立志式								

# 箱根教育

箱根教育とは・・・  
学校教育・生涯学習の中で行なわれる教育・学習の総称

## 学校教育

### 教科・領域

#### 1 地域教育

地域素材を教材とした授業の展開  
・地域素材活用のための教師用指導書

#### 2 箱根ミニマム

- ①すべての学習を成立させる上で必須の基礎的な知識・技能の習得
- ②重点項目「漢字の読み・書き、読書・読み聞かせ、音読、計算」  
・年3回の調査  
☆箱根子ども図書銀行

#### 3 情報教育

- ①小学校における情報教育年間カリキュラムの作成
- ②小学校6年：新聞展

#### 4 国際理解教育

小・中学校に派遣されるALTと積極的にコミュニケーションを図る授業の展開  
・「ようこそ箱根に」

#### 5 心の教育

- ①学校版「おもてなしの心」宣言  
次の5点を行動目標として実践。  
温かな心・・・「ようこそ」  
親切な心・・・「どうぞ」  
労わる心・・・「どうしましたか」  
奉仕の心・・・「お手伝いします」  
感謝の心・・・「ありがとう」
- ②演劇等鑑賞会(小学校)
- ③箱根子どもアート展(小・中学校)

#### 6 体力向上

- ①小学校体育大会
- ②部活動活性化
- ③体力測定追跡調査

#### 7 学校間 絆

- ①幼・小・中学校の教育内容の連携及び児童・生徒・教員の交流。
- ② ☆ 小・中学校の体験入学
- ③中学校教員の小学校交流授業

### 教員研修

#### 1 職場体験

もてなしの心の醸成

#### 2 箱根教育専門研修

- ①生命の星・地球博物館との連携研修
- ②箱根の歴史・文化体験研修
- ③箱根教育授業研修

#### 3 地域体験(希望者)

- ①箱根悠遊塾

### 特色ある学校づくり

#### 1 スクールマネジメント研究

リーダーシップと組織マネジメント

#### 2 箱根ミニマム推進計画

PDCAサイクルによる有効な手立ての構築

学校評価

## 生涯学習

### HAKONE大学

#### <目的>

箱根が有する豊かな自然、歴史・文化、観光事業など、箱根を中心とした専門的学習の場を提供する。  
(中心会場：社会教育センター)

#### <講座概要>

- ・歴史系課程
- ・産業課程
- ・地学系課程
- ・健康課程
- ・文学課程

### 自治学習出張講座

#### <講座概要>

- ・教養
- ・健康
- ・安全
- ・自然保護
- ・福祉
- ・防災

### 郷土学習

- ・郷土資料館各種事業
- ・箱根大学歴史講座

### レイクアリーナ

- ・体づくり各種事業

### 公民館

### ボランティア活動

- ・郷土資料館
- ・元箱根石仏・石塔群
- ・森林浴ウォーク

などのイベント等でのボランティア活動の推進

### 青年育成

☆ 立志式 → 成人式

## ☆ 箱根子ども図書銀行

#### <目的>

- 小・中学校児童生徒の積極的な読書活動を推進する。
- 「箱根子ども図書銀行」を通じ、学校・社会教育センター等の各図書室が連携を図り、誰もが、どこでも本を借りることができるシステムを構築する。

## 地域との連携

公民館、美術館、博物館、ホテルなど地域の産業と連携した支援体制の充実